

Personalityと英語学習 -外向性と内向性に焦点をあてて-

同志社女子大学短期大学部 若本 夏美

文部省の学習指導要領が1989年に改訂され「...外国語で表現する基礎的な能力を養い、外国語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる...」に見られるように、日本における英語教育は強くコミュニケーションを志向するようになってきている。それに伴い中学校・高等学校検定教科書も改訂され、教室における教授方法もそれに伴い次第にそれに沿ったものになりつつある。これは、歓迎すべき事であるが、この変革は、法的拘束力を持つという指導要領の改訂と教科書の劇的な変化によってもたらされたいわば外圧的な変化であって、学習者である生徒のねがいや実態を反映したものになっているか疑問がのこる。

一方、英語学習の成果に影響を与える要因としてI.Q.、言語適性、学習動機、年齢などいくつかあげることができる(Skehan, 1989)が、パーソナリティに関してはその影響力に関しさまざまな議論がある。その内、特に外向性、内向性は一般的によく知られた概念であり、実際に教室で教える多くの教師は、英語、特にコミュニケーション能力に関しては外向的な学習者の方が有利であるという印象をもっている (Lightbown and Spada, 1993)が、実証されているとはいえない。

本研究では、日本のこのようなコミュニケーション志向の英語教育の中にあって、学習者の英語学習に対するアプローチの方法 (Learning Strategy) にどのような差があるのかを外向性と内向性に焦点を当てて明らかにしようとする。そして、その差に対応してどのような教育を用意すればよいか議論する。

学習者のLearning Strategyを明らかにするためにはSILL (Strategy Inventory for Language Learning devised by R.Oxford, 1990)を、外向性・内向性に関してはMBTI (Myers Briggs Type Indicator)、という2種類の質問紙を用い、1995年4月に調査をおこなった。対象となる被験者は短期大学で学ぶ約250名の学生である。

具体的には以下の3点に焦点を当て議論をすすめる。

- 1) 学習者の外向性・内向性の概念はどのようにとらえられるか、また調査の結果被験者にどのような分布がみられるか
- 2) 外向性・内向性によって使用されるストラテジーにはどのような差が見られるか。外向的な学習者が比較的多く使用するストラテジーは何か。内向的な学習者が比較的多く使用するストラテジーは何か
- 3) 2.に関わって、外向性・内向性という点でコミュニケーション志向の授業の中で学習者が困難を感じる可能性はないか

References

- Lightbown, Patsy and Spada, Nina . 1993. *How languages are learned*. Oxford: Oxford University Press.
- Oxford, Rebecca. 1990. *Language Learning Strategies: What Every Teacher Should Know*. New York: Newbury House.
- Skehan, Peter. 1989. "Individual Differences in Second Language Learning," *Studies in Second Language Acquisition* 13: 275-98.